

知られざる丸岡城

丸岡城跡発掘調査の最新成果 遺構編



天正期（柴田氏）

正保期（本多氏）

天保期（有馬氏）

正保期（1644年頃）の絵図にみる丸岡城の縄張（中央図）と天保期（1835年頃）の絵図にみる丸岡城の縄張（右図）。外堀、内堀と丸岡城の曲輪のかたちが変わっていないことがわかります。

※中央図は「正保城絵図のうち、越前国丸岡城之絵図（正保元年）」から、右図は「円陵輿地略図（天保7年）」をトレースして作成しました。

城郭としての丸岡城は天正期（1576年頃）、柴田勝豊によるものから始まります。ところが、柴田氏の整備した丸岡城がどのような縄張であったか、どのような建物があったかについてはわかりません。

『古今類聚越前国誌』の記述によると、「初め居館の類なりしが、重能に至りて城池全く成る」とあり、本多重能が藩主であった正保3～慶安4（1645～1651）に城郭の整備が完了したことがうかがえます。本多氏の時代である正保期（1644年頃）に描かれた絵図と、有馬氏の時代である天保期（1836年頃）の絵図を比較すると、城郭の縄張に大きな違いはありません。つまり、本多氏の時代に完成した城郭が幕末まで残っていたという事になります。

そうすると、発掘調査で見つかった絵図に描かれていない石垣などの遺構は、柴田氏から今村氏といった本多氏以前の時代に整備された可能性があります。



発掘調査で新発見

発掘調査では、絵図によってあらかじめ存在が想定されていた遺構と、絵図には描かれていなかった遺構が見つかっています。隠居曲輪や内堀三ノ丸側石垣、本丸の建物跡はその存在が絵図でも確認でき、江戸時代の遺構がどれくらい残っているか、検証することができます。一方で、天守台南側の石垣や本丸南側の石積遺構は絵図には描かれていない新発見。今後これらの遺構がいつのものか、どういった役割であったか、明らかにしていく必要があります。

〇あとかき〇

発掘調査では多くの方に作業員として参加していただきました。調査は作業員さんのご協力なくしては実施できません。これまで参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

令和3年3月 編集・発行

坂井市教育委員会 文化課
丸岡城国宝化推進室

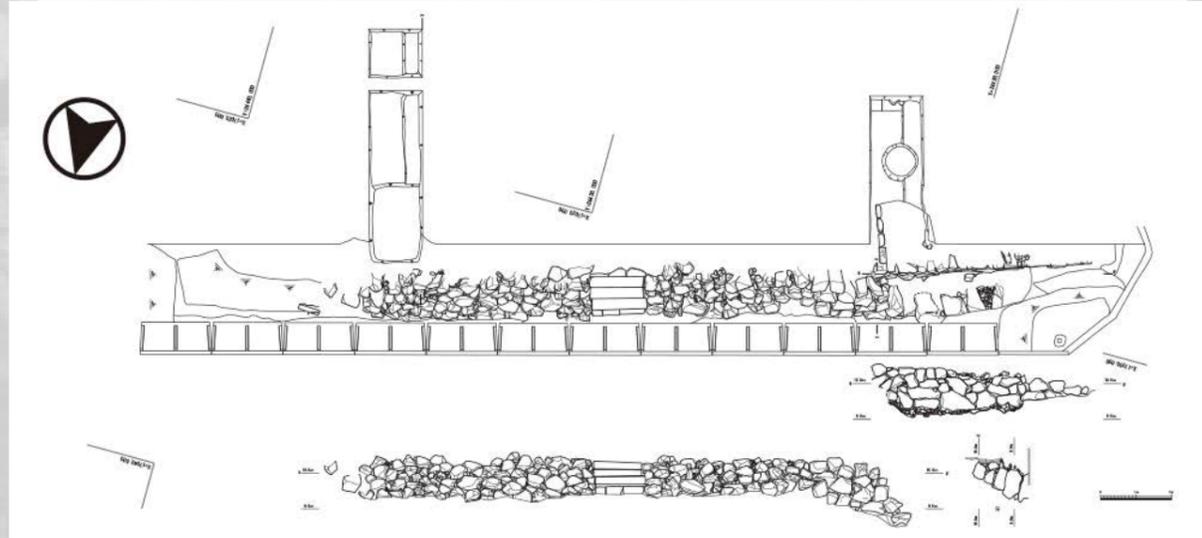
〒910-0231

福井県坂井市丸岡町霞町 1-41-1

電話：0776-50-2270 FAX：0776-50-2553

E-mail：bunka@city.fukui-sakai.lg.jp

丸岡城の縄張や城に係る人々の痕跡は、土の下に遺構として保存されていました。発掘調査を通してわかった丸岡城の新事実をお伝えします。



隠居曲輪で見つかった石垣の平面図・立面図



「正保城絵図のうち、越前丸岡城之絵図（国立公文書館蔵）」

調査した場所は絵図のこのあたり。



石垣は明治以降にも修理されているようですが、一部で古い石垣が残っており、石垣の場所は江戸時代のままであることが分かります。

二ノ丸の隠居曲輪で実施した調査では、北側の道路に面した範囲で石垣を検出しています。この調査結果から、絵図に描かれた縄張が、現在の地図上のどこにあたるか、推定することができます。また、遺構の残り具合からは、縄張のかたちが良好に保存されていることもわかりました。

※曲輪：城を構成する区画のこと。
 縄張：城全体の設計プラン。

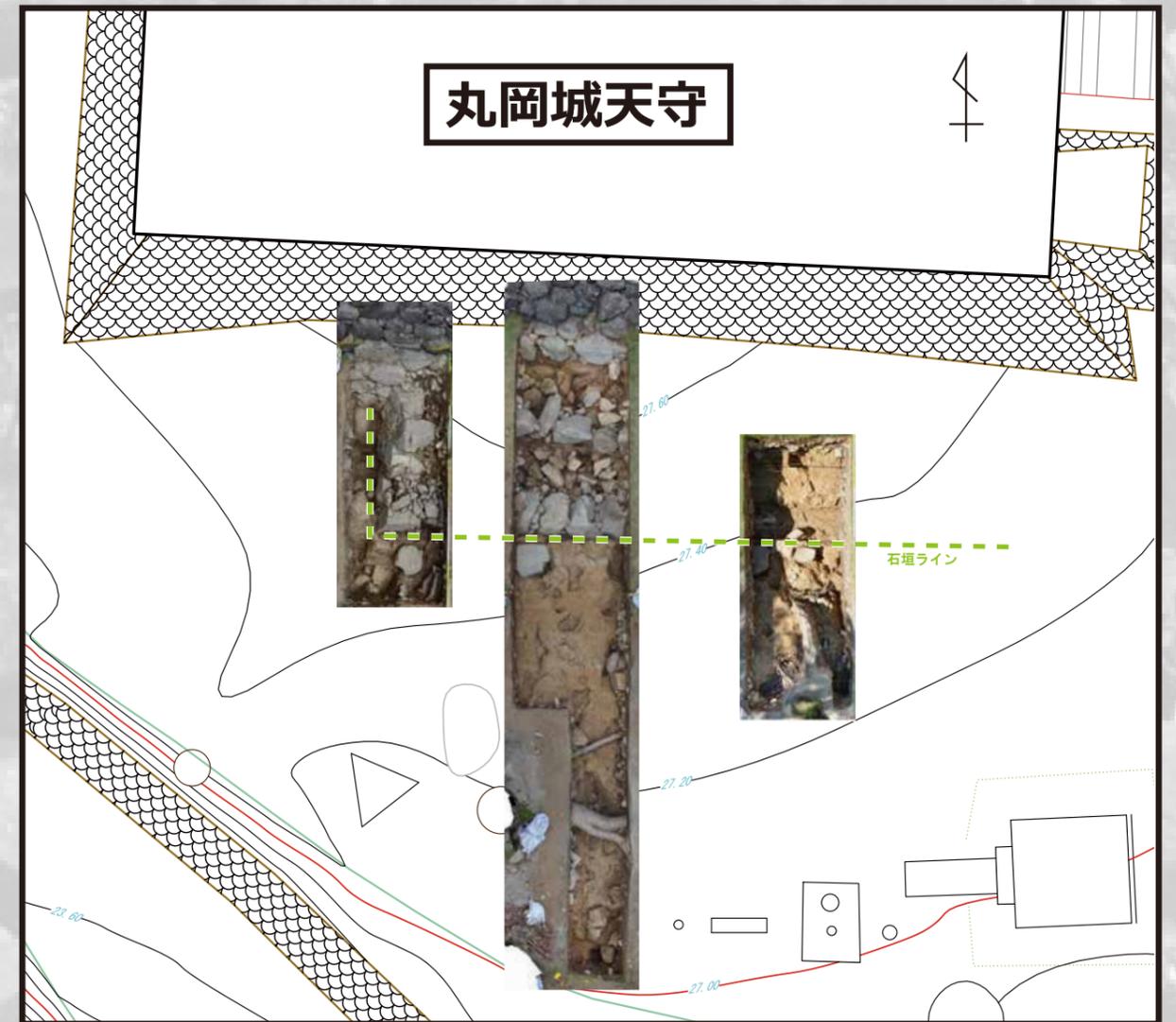
本丸にあった建物

本丸にはいくつかの柱穴、土坑を検出しました。絵図では『家』や『番代所』と描かれており、何らかの建物があったことが発掘調査によっても裏付けられました。江戸時代を通じて、修理や建て直しがされていたと思われます。どのような建物だったか興味が尽きません。

一方で、絵図には描かれていない溝のような石積遺構も見つかっています。本丸の建物に関する施設と思われるのですが、用途については不明。他の城郭で類似例がないか、調査する必要があるようです。



初期丸岡城天守の石垣？



天守台南側からは、絵図には描かれていない石垣が発見されました。この石垣は現在の天守台よりも古い時代で、今とは異なる形状の天守台であったことが分かります。石垣は寛永期より前、慶長期まで遡る可能性があり、寛永期丸岡城天守の前身となる天守の天守台であった可能性があります。

また、石垣の南側には大きな礎石も検出しています。これまで天守の南側に建物がある絵図は見つかっていません。